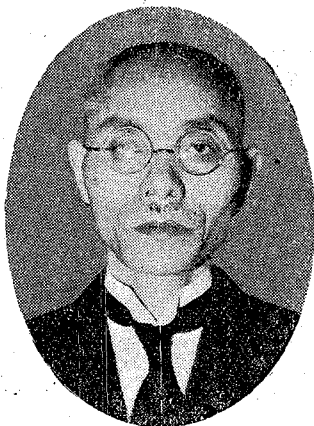


◎大詔奉戴日と内相の訓話 七月八日は第十九回大詔奉戴日、特に太平洋上熾烈なる死闘が續けられ陸海將兵の奮闘は目覚ましきものがある、此日安藤内相は全内務省員に東京都制の實施、地方行政協議會の施行に當り官吏の和衷協力を要望して内務行政の全般智能認識を完うすべき旨を説き四十分の長きに涉り大臣としての見解に基き訓話を試みられ多大の感激を與へた。

◎宮村國土局長の着任と挨拶 宮村新國土局長は七月七日着任せられ直ちに登省午後二時から國土局員を會議室に集め「私は主として地方に勤務したまま本省に歸りましては地方局、神祇院に勤め直接國土局に關係ある行政には與からないので従つて面識を得られなかつた大多數の未知の方が有るが今回不圖も國土局長の重任を負ふに至りましたが全然國土局の事務には未熟で經驗なきものであるから格別の御援助を願ふ特に戦時下國土局の仕事は一層重要性を加ふるに至りましたが未熟とはいへ一生懸命奮勵努

力して奉公の誠を竭したき熱意を以て勉めます。ひとへに熟練堪能なる諸君の御援助と鞭撻を御願するとの主旨を述べて挨拶せられ、鈴木内務技監は全局員を代表して此度閣下が國土局長に御榮轉せられました事につき謹んで御祝辭を申し上げます。未熟なる私共は此危機に遭遇したる國土局の事務につきては極力努力致しますから宜しく御指導と御鞭撻とを賜はらんことを御願ひ申し上げますとの意を述べて答辭とした。

新國土局長宮村才一郎氏の略歴左の如し。



宮村國土局長は明

治二十六年六月新潟

縣高田市仲町三丁目

に於て誕生大正七

年七月東京帝國大

學法科政治科を卒

業せられ同十一年十

一月高等試験行政科

試験に合格、同十二

年五月岐阜縣屬に任ぜられ甫めて官界に入り、同十三年四月山梨縣

西山梨郡長となり同縣北巨摩郡長を経て同十五年七月山梨縣地方事

務官に任ぜられ昭和三年七月福岡縣に轉任同七年六月佐賀縣書記

官警察部長同九年十一月鳥取縣書記官内務部長同十年一月同縣總

務部長同十一年四月岐阜縣書記官總務部長歷任同十三年四月內務書記官地方局監查課長に轉じ同十四年九月東京府書記官總務部長となり同十五年四月奈良縣知事に同年十一月內務省神祇院教務局長兼造神宮理事に同十七年廣島縣知事となり本年七月內務省國土局長となられた。

◎大日本出版報國團結團式の舉行 七月二日午後一時日比谷公會堂に於て日本出版會は大日本出版報國團の結團式を舉行した。後藤大政翼贊會副總裁、赤羽情報局總裁、鹿子木員信博士其他を招待し二千餘名の會員及從業員參集し國民儀禮の後開會の辭あり天羽情報局總裁後藤翼贊會副總裁の祝辭ありて報告役員の指名久富團長の訓辭誓詞宣言等があつて、聖謠萬歳を三唱以て大日本出版報國團萬歳を唱へて閉會以て竹本情報局出版課長激勵の辭、大日本言論報國會理事長鹿子木員信博士の講演があつた。本會よりは平井幹事出席した。

◎內務省土木試驗所談話會

第二百三十五回技術談話會話題 昭一八、七、二 午一、三〇

- 一、樺太に於ける冬期交通問題 (三〇分) 藤森 技師
- 二、機械力による飛行場建設に就いて

三、映畫「建設機械」

雜報

- (三〇分) 松村 技師
- (二〇分) 大倉商會社提供

四、セレベス島の水力概觀 (五〇分) 日本發達電調査課長 山倉嘉一郎氏

五、青森雪害防除試驗設置とその研究事項に就いて (二〇分) 青木 所長

◎昭和十六年度直轄工事年報 治水事業、港灣改良事業並國道改良事業及び本年度直轄施行工事を集約統計したるもので、道路は一號國道路線を始め百三件を掲ぐ蓋し執務上不可缺の好參考とするに足る。

◎侯爵大久保利武氏 大久保利武氏は去る七月十三日薨去せられた。種々公益事業に關係をもたれた享年七十八歳。

◎近刊圖書雜誌 (寄贈交換)
○國土計畫 (第二卷二號)

(都市と農村の調整、生産機構と國土計畫、住宅政策の方向、都市人口構成上より見たる産業所更量)

○大大阪 (七月號)

○河川 (第二卷六、七月號)

○東大陸 (七月號)

○都市問題 (第三七卷一號)

○都市公論 (第二六卷六號)

○土木學會誌 (第二九卷六號)

○セメント統制會技術報告 (第二卷一號)

（雜用セメントの使用に就て）

○土木滿洲（第三卷三號）

（直木倫太郎博士追悼號）

○港灣（第二二卷六、七號）

○發送電（第三卷六號）

○電氣通信學會雜誌（第二七卷五號）

○民族學研究（新第一卷六號）

○新民（第四五二號）

○セメント統制會誌（第一卷三號）

○自警（第二五卷五號）

○警察協會雜誌（第五一七號）

○企業（第五卷九、一〇、一一、一二號）

○汎交通（六月號）

○三田學會雜誌（第三七卷五號）

（加田哲二氏「戰力論」）

○土木試驗所報告（第七〇號）



○若葉吟社詠草

竹植へて新居の朝の風すがし	落
青葉蔭湖に亂れて風薫る	同
藪原を拂ふて廣し竹植る	同
海見へて丘の起伏や花菜道	同
船唄の遠く消へゆく春の波	同
夕風ぎて一灣晴れぬ春の波	同
風薫る山陽線や瀬戸の海	東邊
竹植へて月待つ縁に坐りたり	同
柔かき土に親しみ竹植る	同
風薫る牧場や駒のすくくと	同
一日を終えて家路や風薫る	同
田水引いて鍬洗ふなり風薫る	澤
風薫る江戸川堤辿りけり	同
竹植へてさやげる夜半の寢覺かな	同
春濤や夕暉の中の烏帽子岩	野狐禪